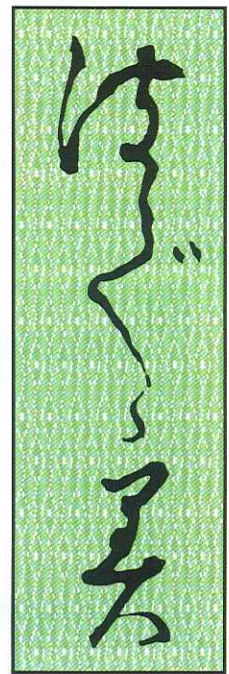


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 (097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江西1丁目4323番25 いづみ印刷株式会社



相互理解で つながる思い 前進する活動

県P連では、各都市P連より選出された理事と母親代表が、それぞれ定期的に理事会・母親部会を行っている。

家庭教育が見直される中、その一端を担う母親部会の課題について話し合い、今後の活動につなげたいとの思いから、

1月31日(金)ホルトホール大分にて、懇談会を開催した。

はじめに、富永大輔県P連会長が「子育ての上で母親の占める位置は大きい。県Pとして子どもたちに何が出来るか。学校現場で、わが子はクラスの中で笑っているだろうか。会員一人ひとりが、子どもに責任を持たなければならぬ。活動の基本は、まずは単Pからとっている」とあいさつ。

続いて、廣瀬多賀子県P連副会長(母親部長)が「日頃話すことのない理事と母親部の懇談。遠慮なく、疑問に思うことを出し合い、有意義な会にしましょう」と話し、懇談会は和やかに始まった。

討議の柱は設けつつ、フリートーク形式で話は進んだ。それぞれの役割や必要性について、あるいは充て職の必要性と意義についてなどが話題の中心になった。

信頼関係は コミュニケーションから

母親 学校長と関わる時、会長が主だと思いが、女性副会長はどのように関わったら良いと思われませんか。理事 母親である副会長が味方であれば、組織がうまく回らない。活動がうまくいく



理事・母親部の前であいさつする富永会長

コミュニケーションが取れた。一致団結を感じられた。会長 単Pなら女性副会長が要、というように学校では、教頭先生が全体を良く把握している。校長先生にいきなり話を持っていくよりも、教頭先生と下話をしておくことがスムーズに進んだ経験がある。難しい話であればなおさら。保護者心得六箇条の5、学校に対しての相談はまず担任の先生にしよう」とあるように社会的な秩序を考え、P担当の先生や教頭先生と気軽に話ができる環境を作るのがよいと思われ。



熱心に意見を聞く参加者

母親 用がなくても職員室に行くように心がけている。行けばコミュニケーションは取れるように思われるので、学校に行くのは大事。理事 どちらかというと、母親のほうが学校に携わっている時間も長いし、父親より学校に向く機会が多い。真実かは別として母親からの情報はよく入ってくるし、会長の知らない情報も多々ある。

母親 母親同士のほうが相談しやすいのではないかと。理事 いろんな情報があるかもしれないが、聞く耳を常に持つというところは大切なのではないか。すべては子どもたちのためというのは大前提だろう。それ以外の情報は、よく考えて行動しなければならぬと常々思っている。

母親 会長・副会長・校長先生・教頭先生とうまくコミュニケーションを取り、よりよいP活動を子どもたちのために行っていきたいと思います。それぞれの役割を 考えながら

理事 充て職についてだが、いろんな会議に参加しているが、内容がわかってきた頃に一年の任期が終わってしまっているのは残念なことだ。時間もな

コミュニケーションが取れた。一致団結を感じられた。会長 単Pなら女性副会長が要、というように学校では、教頭先生が全体を良く把握している。校長先生にいきなり話を持っていくよりも、教頭先生と下話をしておくことがスムーズに進んだ経験がある。難しい話であればなおさら。保護者心得六箇条の5、学校に対しての相談はまず担任の先生にしよう」とあるように社会的な秩序を考え、P担当の先生や教頭先生と気軽に話ができる環境を作るのがよいと思われ。

母親 用がなくても職員室に行くように心がけている。行けばコミュニケーションは取れるように思われるので、学校に行くのは大事。理事 どちらかというと、母親のほうが学校に携わっている時間も長いし、父親より学校に向く機会が多い。真実かは別として母親からの情報はよく入ってくるし、会長の知らない情報も多々ある。

母親 母親同士のほうが相談しやすいのではないかと。理事 いろんな情報があるかもしれないが、聞く耳を常に持つというところは大切なのではないか。すべては子どもたちのためというのは大前提だろう。それ以外の情報は、よく考えて行動しなければならぬと常々思っている。

母親 会長・副会長・校長先生・教頭先生とうまくコミュニケーションを取り、よりよいP活動を子どもたちのために行っていきたいと思います。それぞれの役割を 考えながら

理事 充て職についてだが、いろんな会議に参加しているが、内容がわかってきた頃に一年の任期が終わってしまっているのは残念なことだ。時間もな

母親 用がなくても職員室に行くように心がけている。行けばコミュニケーションは取れるように思われるので、学校に行くのは大事。理事 どちらかというと、母親のほうが学校に携わっている時間も長いし、父親より学校に向く機会が多い。真実かは別として母親からの情報はよく入ってくるし、会長の知らない情報も多々ある。

母親 母親同士のほうが相談しやすいのではないかと。理事 いろんな情報があるかもしれないが、聞く耳を常に持つというところは大切なのではないか。すべては子どもたちのためというのは大前提だろう。それ以外の情報は、よく考えて行動しなければならぬと常々思っている。

母親 会長・副会長・校長先生・教頭先生とうまくコミュニケーションを取り、よりよいP活動を子どもたちのために行っていきたいと思います。それぞれの役割を 考えながら

第37回 大分県PTA 広報紙コンクール

1年の成果をお待ちしています

締切 平成26年3月20日(木)
審査日 平成26年4月3日(木)
表彰式 平成26年4月17日(木)

※応募対象※
県下の小・中・特別支援学校PTAで年3回以上定期発行した広報紙(号外を除く)。(平成25年4月から平成26年3月発行分)
審査部門は小学校と中学校の2部門とする。

「第37回大分県PTA広報紙コンクール出品についてのお願い」は各都市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。

ではないかという潜在意識があるかもしれない。理事 日頃の細かいことに関心しては副会長のみなさんが頼り。どう動いてもらうかは大きな力になると感じる。母親 くしてといった言い方はなく、助けてほしいと伝えるように心がけている。会長 お互いにどんな人なのだろうと理解するまでには、そこそこの時間がかかる。会長という役割に当然、責任はあると思う。しかし、一会員として上も下もなく平等の中で、誰かが背負う部分を会長は担っている。P活動というものは、みなさんに協力して活動してもらわないと成り立たない。そのことを踏まえ、一人ひとりが、自分の役割を果たしていったほしい。

母親部会とは
①県P連の1専門部会に属し、16都市P連からの代表である母親代表員をもって構成。
②PTA活動に参加する85%以上が母親であるという事から母親部会では母親の立場での生の声を反映。
③各種会合への参加や、PTA活動の補助、及び母親独自の目線で家庭教育問題に取り組み。また、母親として個人としての向上を目指し研修会の開催・参加など積極的に活動している。

研心北

▼グロリオサは、どうぶつのはみたくて、かつこよかったです。まわりに黄色、中に赤色でした。はつばが大きいからです。もうひとつの葉っぱは、先がまるまっています。すこかったです。(第2回、大分市2年) 文だけでも感動が伝わってくる。絵が文以上に上手。花びらのうねりやまき込みが力強い。2/3、2/3第3回夢一輪運動(子供の未来に夢を託すプロジェクト)に退職校長3人で参加した。主催(NPO法人夢一輪の会・会長野上健次)共催(大分県・大分市同教委 目的(幼少の頃花に身近に触れる機会をつくること、花の色や香りを感知、花を通して癒しや安らぎ、感動の心を育む土壌をつくる)▼会場は滝尾小、ビッグアイに続いて今回は大分市コンパルホール3、4F。大分、白杵、由布市の2年児童2千名が18回、34班に分かれて約5千本の名花珍花を各人各様に楽しんだ。▼お気に入りの一輪を決めかねる子、「先生バラにはトゲがある子知っちゃうよ」と問う子。床に腹這って無心に描く児童達を眺めていると大きな夢に向かって元気に成長し欲しいと願うばかりだ。7、8日は「花とあそび花であそび」のイベントがあり、花びらで絵や字を描くことを子供や保護者と楽しんだ。▼閉場間際に「宿題だ」と母親と駆込んできた男子(前日見学)が描いたのはスノーダンス・マリンブルー(青バロ)。私はその姿がたまらず責任者に掛け合っつて母子に一輪渡した。今も机上に生きているかも。児童を動員する行事は学校も主催者も大変気遣いが要る。それを乗り越えることがPTAの活動と思う。

大分県PTA研究大会日田・玖珠大会

子どもたちのために



第22回 大分県PTA研究大会 日田・玖珠大会
水輝ひたから、羽ばたけ、夢を希望して未来を求めて

あいさつする広瀬知事

第22回大分県PTA研究大会日田・玖珠大会が1月26日(日)開催され、県下より関係者約1000名が参加。
「絆を大切に、未来に輝く『地域の宝』を育てるPTA(育友会)活動」を研究主題に「水輝ひたから 羽ばたけ 夢・希望 そして未来を求めて」の大会スローガンのもと、パトリア日田他全3会場で行われた。
午前中の全体会に引き続き、午後からは各会場に分かれての分科会で活発な討議がなされた。

全体会

開会式で富永大輔県P連会長は「PTAの活動の目的は、『子どもたちが安心して学校生活を送れるようにサポートをする』『人とのふれあいを通じて子どもと共に成長していく』という2つの柱がある。県Pは各単Pのサポートであると思っている。保護者はPTA活動や地域の行事に参加し、人とのつながり『ふるさと』を子どもに作ってあげてほしい」とPTAが目指す方向を訴えた。
続いて梅山博之大会実行委員長があいさつし、来賓の祝辞へ移った。

広瀬勝貞大分県知事は「世の中の大きな変化の中で、子どもたちが夢を実現するためには知・徳・体をしっかり身につける必要がある。世界とつながることができるグローバルな人材育成が重要である。学校・地域・家庭が一体となり育てていこう」と述べた。
今大会のアトラクションとして、日田市立津江小・中学校の児童・生徒を中心とした中津江筆曲少女隊による琴の演奏が披露され、心地よい音色で大会に華を添えた。
記念講演は、ムツゴロウさんの愛称で親しまれている畑正憲氏。「愛の基本信号」の演題で行われ、参加者は貴重な体験談に熱心に聞き入った。

第1分科会 家庭教育

親子の絆を深める 家庭教育

「親子の絆を深める家庭教育」をテーマに約250名が参加し討議。
佐藤忠男日田市立荻小学校P会長は「親子で取り組む生活習慣づくり」と題し発表。PTA総会時を利用してビデオ視聴を行い、子どもたちのメディア漬けの問題点について意見交換した。次に、学校から配られる「毎日のくらしのチェックシート(起床・学習時間・就寝)」の項目にメディア接触時間を加え親子で取り組んだり、5段階レベル分けした「ノーメディアDAY」を実施した。その結果、メディア接触時間は大幅に減少した。他に隣接の中学校・保育園の保護者と共に催行したメディア講演会など他団体と連携して取り組めたことは、これからのPTA活動の大きな力となる」と報告した。
討議では、読み聞かせの活

動やテレビを見ながらの親子間会話など活発な意見が出た。石井圭一郎県教育庁社会教育課主任社会教育主事兼主幹は「生活の中で大切なのは、メディアが一方通行にならないよう自分の頭で考えること。それがメディアとの適切な付き合いになる」と指導助言した。



取組の成果を発表

「カアテン」の取組

次に、長谷部明日田市立前津江中学校P会長は「小・中PTAが連携し、ほめて育てる家庭教育のあり方」「カアテン」を掲げる。5つの取り組みとして発表。「家庭教育の見直しとしてアンケート調査を行い、取り組みの柱として『子どもをほめて育てる』という昔からの教育を受け継いでいくことにした。内容は5つの取り組みで、『カ』家族の会話、『ア』挨拶や言葉遣い、『テ』手伝い、『ま』

第2分科会 健全育成

地域と連携し 見守り育てる健全育成

「地域と共に育てる健全育成」をテーマに約300名が参加し討議。
笠木隆弘別府市立境川小学校P会長は「大人の背を見て子どもは育つ。50周年事業を通じて気づいたこと」と題し発表。本校では、2年後にコミュニケーション・スクールを導

入する。学校と保護者や地域の方が、共に意見を出し合い協働して子どもたちの豊かな成長を支えるというこの仕組みをスムーズにスタートさせるためには、まず地域とのつながりを深めることが重要と考える。そこで、迎えた創立50周年の記念式典やふれあいフェスタ、納涼音頭大会に地域の方々を招待したり、地域の行事に積極的に参加するなど、家庭・学校・地域が密接

地域の中の 育友会活動

次に、伊藤寿朗日田市立三隈中学校育友会長は「話そう聞こうみんなの子育て」町内

第3分科会 広報活動

魅力ある広報紙作り ～地域とのつながりの中で～

「学校・PTA(育友会)・地域の絆を深める広報活動のあり方」をテーマに約70名が参加し討議。
長谷部明日田市立高瀬小学校P会長と木下貴子同広報部長は「学校生活を通じ地域とのつながりを大事に歩み続ける広報紙」と題し発表。「広報部の活動は今年度で33年目を迎えた。広報紙の役割は、家庭・学校・地域のつながりを深めることにあるという認識のもと、子どもたちはもとより、育友会活動に携わる保護者や地域の方々を中心に記事にしている。例えばスクールガードを行ってくださる地域の方へ感謝を伝えたり、おやじの会の活動を紹介したりと、地域全体で子どもを見守っていることを発信している。今

次に、甲斐健介佐伯市立鶴谷中学校育友会長と植田有子同広報委員長は「読み手と作り手 共に魅力ある広報紙」を掲げる。魅力ある広報紙の作り手として、読み手と作り手双方に魅力ある広報紙作りを基本に、家庭・学校・地域をつなぐ活動を探索したい」と報告した。
討議では、県PTA広報紙コンクールの上位入賞を続ける秘訣などに関心が集まった。岩尾淳一大分県PTA連合会は「美観は、つながる」という思いを共有した活動である」と指導助言した。

つながるひろがる 広報紙の役割

「各クラスから選出された役員他、担当の副会長、教諭合わせて30名程の広報部員が班に分かれ各号を担当している。育友会活動を広く発信することを、広報紙の一つの役割と考え、積極的に取材を行い記事にしている。年間テーマに沿った座談会やアンケートで保護者や子どもたちの声を拾うなど、より身近な広報紙作りを目指している。また、読み手と作り手双方に魅力ある広報紙作りを基本に、家庭・学校・地域をつなぐ活動を探索したい」と報告した。
討議では、県PTA広報紙コンクールの上位入賞を続ける秘訣などに関心が集まった。岩尾淳一大分県PTA連合会は「美観は、つながる」という思いを共有した活動である」と指導助言した。



熱気があふれる全体会会場

教育問題懇談会

平成25年度

平成25年11月22日、大分県庁において教育問題懇談会が開催された。県教委からは野中 信孝県教育長をはじめ関係各課より16名、県P連からは富永大輔県P連会長他副会長・理事ら24名が出席。子どもたちによりよい教育環境を、という思いのもと熱心な意見交換が行われた。



あいさつする野中 信孝県教育長

し、必要なお子さんには必要な支援を考えている。情緒障がい児学級については、規定に基づき適切に設置し、授業の質の確保に努めている。

② 学力向上について

県は、先生方の勤務の体制が柔軟に出来る様バックアップしている。

今年度も、各都市P連(育友会)より持ち寄った討議の柱を3つにまとめた。これらの柱を中心に要望や意見の交換を行い、お互いの理解を深めた。

① 子どもたちへのきめ細やかな指導を

30人学級導入拡大について、小学校三年生から六年生への導入については、学級の人数を少なくするより習熟度の指導やチームティーチングの指導の方がより効果があると考え、導入していない。また学校が先生方一人ひとりの力に頼るのではなく、芯の通った学校組織として先生方をフォローアップできる体制づくりをしている。まずはそこを固めることを優先し、来年度も今の体制のまま取組を強化していく。

特別支援学級の増設については、平成23年度から2000年度のうちに167学級を設置

③ いじめ問題について

市町村の取組を県が支え、国も後押しする予算要求をしているようにだ。

スクールカウンセラーは現在小学校55校、中学校全校に配置されている。特に中1になって問題が起きやすいことから、中学校区の小学校と連携する小中連携配置に取り組んでいる。縮小は考えていない。人材については大学等と連携し、養成・協力をお願いしている。



意見を述べる富永会長

いじめを発見するシステムと発見したときの対応システムの指導について、小中学校の教員対象のスキルアップ研修では、発見から対策までの講義実習を行った。また、小中全校に配布したいじめ問題対応マニュアルを通じて、システムの指導や研修を広げ、スキルアップにつなげたい。その他 母親の立場からの

先生の数や質の確保についてや高校再編についても意見交換がなされた。高校が減って選択の幅が狭まった現状も理解しながら、基本的には子どもが減っている中、高校段階での教育環境を整え、質を保障するためには統合せざるを得ない状況。統合に当り、各学校の教育の機能や伝統を引継いだ総合学科や福祉科を作る等、行政・住民・保護者等と連携し、応援を受けながら地域の学校にも取り組んでいる。中学校の保護者や地元にも不安があること等改めて感じた。十分な情報提供と今後の子どもたちのために検証し進めていきたい。

平成26年度「大分県PTA連合会任意保険」を募集中

PTA育英補償制度・PTA自転車安全補償制度

補償期間 H26年4月1日 午後4時 ~ H27年4月1日 午後4時

お申込締切 平成26年 3月31日

保険の種類と保険料

○PTA育英補償

Aコース: 5,200円(1人目)

○PTA自転車安全補償

Cコース: 1,110円(1人目)

Bコース: 3,760円(2人目から)

Dコース: 500円(2人目から)

加入方法

学校から配布された専用の振込用紙でお申込みください。

大分県下における「大分県PTA連合会補償制度」のお支払い事例 (年間約600件のご請求があります)

【PTA育英補償制度】

学年	種類	内容	お支払い金額(円)
小4	傷害	テーマパーク内で池の茶場とぶつかった転倒し、負傷	50,000
小6	傷害	ドッジボール大会で指を骨折	23,000
中2	賠償	休み写真中に教室内で遊んでいて壊ったガラスを割ってしまった	6,300

【PTA自転車安全補償制度】

学年	種類	内容	お支払い金額(円)
中1	傷害	自転車走行中に歩行者を避けようとして転倒	120,000
中3	傷害	自転車走行中に車と接触	62,000
小5	賠償	自転車走行中に、ペダルで駐車中の車に傷を付けた	360,000



副会長 母親部長 廣瀬 多賀子

本年度の母親部会は、「基本は市P・単P」を合い言葉に即、その活動に生かすことができる研修や意見交換会を行って参りました。

特に、単P会長研修会でのグループ討議では、各会長の



副会長 家庭教育部長 藤田 和秋

県P理事2年目にして、副会長兼家庭教育部長という大役を仰せつかったのですが、富永会長や事務局の皆さんの

悩みや問題点を共に議論し、情報の共有ができました。

紙面の都合により「まなざし」「親ごころ」「一村一報」はお休みします。



副会長 学校教育部長 和田 俊二

学校教育部会は本年度、全単位PTA会長研修会、県教委との懇談会を中心に活動を

行っていました。

最後に部員の理事の皆様、お疲れ様でした。

一年をふり返って

専門部会より

反抗期 どう接したらいいの? ③1

失敗の値打ち

「マー君の移籍話にケリがついたが、名門チームが提示した破格の年俸総額に心が集まった。実績が優先する現実を改めて直視させられた。」

安打には八千回の失敗があった」と話していたが、体験から出た説得力ある言葉である。失敗は、効率化を背景にした経済優先の社会にあつて避けられ、脇にそっと置かれる傾向がありはしないだろうか。子どもには、失敗が許される世界を大切にしたいと思う。自分自身の成長を実感するには、自分の失敗と共に歩み始めるしかないだろう。

編集後記

▼風邪が花粉症か? この時期は判別がつかず、薬に迷う。▼布団が恋しい季節。意を決して飛び出し弁当作りに励む。▼それが君たちの道だよと背中を押す。春はすぐそこ。▼朝のよみきかせにて。真剣なまなざしに心地よい緊張感。